

京都大学宇治キャンパス公開2009へのお誘い

本日はご多忙中にもかかわらず「京都大学宇治キャンパス公開2009」にお越しいただき誠にありがとうございます。

京都大学は、明治30（1897）年に創設され一昨年に百十周年を迎えました。創設以来築いてきた自由の学風を重んじ、自由と調和に基づき社会に貢献するとともに活発な教育研究活動を行い、ノーベル賞受賞者をはじめ各界に多くの優秀な人材を輩出してまいりました。

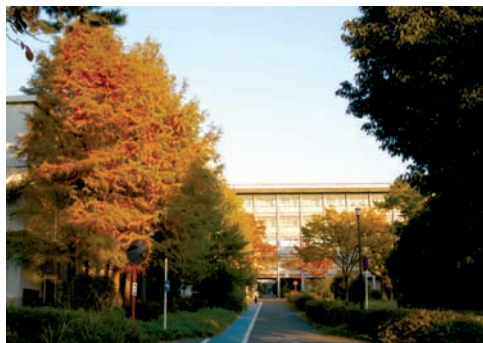
宇治キャンパスは、昭和22（1947）年に旧陸軍の敷地の無償貸与を受けて発足した京都大学の第二キャンパスで、主に自然科学系の研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）や農学・工学研究科等6部局のサテライトがあります。また、部局間を横断する研究活動を展開する3つの研究ユニットも宇治地区を本拠としています。

学生は大学院生が主で、自然科学系大学院のうち理学、医学、薬学、工学、農学、人間・環境学、エネルギー科学、情報学の8研究科に在籍する大学院生が約700名（本学大学院生の約8%）、学部生等を加えると900名を越える学生と、常勤・非常勤を合わせて約800名の教職員がおります。地理的には、京都駅からJRで約20分と本学の他のキャンパスに比べ近く、並行して京阪電車宇治線が走り、キャンパスから5分のところに名神高速道路につながる京滋バイパスの出入り口があるなど、交通アクセスに恵まれた環境にあります。

宇治キャンパスでは、さまざまな学才を結集して「社会の持続的発展を目指した先端科学の開発と融合」に取り組んでいます。皆様、来られてすぐにお気づきになられたことと思いますが、宇治キャンパスの特色を活かし、大学院生・留学生・研究員等が集う教育研究施設として、この度、新しく「京都大学宇治おうばくプラザ」を建設いたしました。世界に成果を発信するための国際会議や学会等を常時開催できる施設としての機能を果たすとともに、地域の一般の皆様にもご利用いただけるような施設となっています。また、宇治地区の研究所本館では耐震補強工事が3年前より進行中です。産官学連携研究拠点施設の設置も予定されており、こうした建設ラッシュは宇治キャンパスに景観的な変化だけでなく、新しい活動を生みだし、科学技術立国を目指すわが国にとって大切な最先端科学の開発と融合研究の進展が期待されます。

今年度のキャンパス公開のテーマは「新たな宇治キャンパスへのいざない—最先端科学をより身近に—」です。多くの皆様にご参加いただけるよう、10月24日、25日の土日2日間に開催するとともに、パネル展示、講演会、大型実験装置や実験室などの見学会を開催いたします。宇治川畔（中書島付近）に所在する防災研究所宇治川オープンラボラトリーの見学会や、宇治キャンパス内の散策をかねた樹木観察会、景品付きスタンプラリーも行います。市民の皆様のための「防災よろず相談コーナー」や企業の皆様のための「先端研究施設産業利用相談コーナー」も開設します。お子様からシニアの方々まで幅広い世代の方々に十分楽しんで頂けるよう準備を進めてまいりました。

皆様、どうぞ「京都大学宇治キャンパス公開2009」をごゆっくりとお楽しみください。



平成21年10月

京都大学宇治キャンパス公開2009

宇治地区世話部局長 尾形 幸生
実行委員長 長崎 百伸